

訪問して調べるやり方

「百聞は一見にしかず」—— 机上の学習だけで環境・エネルギー学習を進めていても、深まりに欠けます。ぜひとも、訪問や見学を調べ学習に取り入れたいものです。

訪問のポイントと、見学例を次に示します。

ポイント 1 地域の電力会社へ連絡すること。

地域の電力会社の広報窓口へ連絡しました。講師の派遣や地域の電気関連施設の見学の窓口にもなってもらえます。

そこで、必要な連絡事項は次の通りです。

ポイント 2 希望の日時、見学場所、参加人数を知らせること。

例1

2001年8月22日、山口県柳井市の中国電力柳井火力発電所を見学しました。こは、LNG（液化天然ガス）を使った火力発電所です。

見学時間は、13:30～15:30、見学内容は、柳井火力発電所の概要説明と発電所内部の見学でした。

石油、石炭などの火力発電の中では、LNGの火力発電が最もチッソガスや硫黄酸化物を出さないで、LNGを使った火力発電所は環境問題に率先して取り組んでいる火力発電所といえます。その最前線の現場を見学しました。

火力発電所では、このLNG発電がさらに進んでいくと考えられます。

例2

1999年、広島県東広島市にある中国電力技術研究センターで体験学習を実施しました。対象は小学4年生。社会見学の一環として実施したものです。

内容は太陽光発電システムによって発電した電気を使った実験を中心に組みました。こは、太陽光発電システムの最先端の研究所です。

学校から持参した太陽電池を使ってモーターカー（模型）と技術研究センターの巨大太陽電池を使って、電気自動車（1,500cc）を走らせました。持参した太陽電池と技術研究センターの巨大太陽電池の違いについて調べるといふ学習でした。

	持参した太陽電池	巨大太陽電池
晴れの日の発電量		
曇りの日の発電量		
モーターカーを走らせてわかったこと・気づいたこと・思ったこと		

この実験を通して太陽光発電の可能性について知りました。子どもたちは、日本の家庭の屋根の約半分に太陽光発電システムを設置した場合の発電量が、総発電量の数%にしかないことを知って驚いていました。

例3

2000年11月、島根原子力発電所を見学しました。ここは中国電力唯一の原子力発電所です。原子力発電といえば、放射能とか放射線の被爆とすぐ結びつけてしまうものです。しかし、原子力発電所は、現在の日本の総電力量の1/3以上をまかなっている主力の発電所でもあります。

実際の見学では、胸元にガイガーカウンターをつけて見学しました。ガイガーカウンターとは、放射線量の測定器です。皆、ドキドキしながら見学して回ったようでしたが、炉心の真上も、蒸気タービンの部屋もほかの館内のどこを回っても、ガイガーカウンターの数値は0のままでした。

実際には、12歳以上でないと原子力発電所の内部を見学できないことになっています。

小学生の場合は、模擬的に体験できる原子力館という見学施設で楽しく見学ができます。

ポイント 3 質問事項を簡潔にまとめて用意しておく。

どこの見学地に行ってもこのことは同じです。

子どもに事前学習をさせて、その際に出た疑問点をまとめておき、訪問した見学地で質問して、疑問点を解決していけば、充実した見学になります。

近くの環境・エネルギー関連施設を積極的に訪問すると、楽しく有意義な環境・エネルギー学習になります。